



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

9月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤尚子

夏の学び

今年も、昨年に引き続きコロナ感染症拡大防止、と言われる中で過ごす夏となりました。各ご家庭では感染症予防をしながら、猛暑を避けて過ごすのに様々な工夫をしたのではないかと思います。夏は暑さを含めて多様な体験ができるときでもあります。

さくらだこども園の夏は、水遊びとオリンピック・パラリンピック観戦で過ごしました。午前中のまだ何とか外に出られる時間に、テントの中の日陰で水遊びをし、外に出られない日や暑さの残る午後の時間にはオリンピック・パラリンピックを観る時間をつくりました。

3歳児がパラリンピック競泳の視覚障がいクラスを観ていたときのことで、すぐに何人もの幼児がテレビ画面の前で選手のスタートの姿勢をまね、選手と一緒に泳ぐ動きを始め、選手が泳いでいる間ずっと床の上で泳ぎ続けていました。そして「こんなにずっと泳いでいるんだ!」、選手を見て目を閉じて泳ぐ動きをしていた幼児は「これじゃあ何も見えない!」などとそれぞれに感じたことを口にしていました。幼児は体験を通して学ぶといいますが、幼児にとってはどのようなことも体験です。そして、自分の体を通して「泳いでいるこの時間にどれだけ体力を使うのか」「見えないということはどういうことか」「選手・アスリートへの憧れの思い」などを言葉で表現した以上に感じ取っているのだと思います。

直接、人や自然などに関わるだけでなく、どのようなことでも自分の体を使って学ぶ機会にできるのが幼児なのだと思います。

保育者も、夏の間に、何日か続く休みのあるこの時期だからこそその研修会への参加やゆったりとした生活時間を過ごすことで、保育者として、また人としての学びを得ることができました。保育者の学びは幼児のよりよい生活や学びに生かされていきます。

大人が学び続ける姿勢は、子どもたちにとって生涯学び続ける人としてのお手本になると考え、保育者も日々学んでいます。

9月からの園生活も、感染拡大防止が子どもたちの学ぶ機会の保障に繋がります。こども園の生活はどうしても多くの子ども同士の関わり、接触が避けられません。園としてもできる限りの対策をとりますので、保護者の皆様もお子さん、ご家族の方の体調がよくないときには早めの対応をお願い致します。

—今月の指導のめあて—

- 〈3歳児〉
 - ・着替えや所持品の始末などをすることがどうして必要かを知り、できることは自分でしようとする。
 - ・保育者や友達と過ごす中で、自分の気持ちを動きや言葉で表そうとする。
 - ・身近な虫や秋の草花・木の実などを見たり、触れたりして楽しむ。
- 〈4歳児〉
 - ・保育者や友達と関わる中で、自分なりの思いを言葉や動きで表したり、体を動かして遊んだりする楽しさを感じる。
 - ・園庭の栽培物や虫など身近な秋の自然に興味をもち、見たり触れたりすることを楽しむ。
- 〈5歳児〉
 - ・共通の目的に向かって友達と一緒に取り組む中で、自分の力を発揮しようとする。
 - ・友達と力を合わせて取り組んだり、競い合ったりし、いろいろな運動遊びを楽しむ。
 - ・秋の自然に興味や関心をもち、よく見たり、遊びに取り入れたりすることを楽しむ。

